

2019 全国オリーブサミット in 小豆島



全国のオリーブを栽培する自治体が集まったのは初めてのこと。いくつかの自治体とは、視察研修などで繋がりもありましたが、こうして、一堂にたくさんの自治体が集まって、情報を交換し、小豆島の最新の設備などを見学できたことは国内の、そして江田島市のオリーブにとっても、素晴らしいことでした。これを新しい一歩として、産地間で連携し、国産のオリーブオイルの魅力を高めることを目指します。

江田島市のオリーブ栽培は10年目を迎えました。これからも他の産地と連携協力することはもちろん、互いに切磋琢磨し、「オリーブの島」になるよう歩みを進めていきます。そのためにも市民の皆さんと一緒にオリーブの栽培に力を注いでいきます。新芽が吹き始めた春、江田島市のオリーブ産業もオリーブの樹のように成長していくことを願って。

2019 全国オリーブサミット in 小豆島 共同宣言



明治41(1908)年に試験栽培として初めて香川県・小豆島にオリーブが植栽されて110年になる。植栽後、国内でのオリーブ栽培は瀬戸内海沿岸、特に香川県・小豆島を中心に行われてきた。

近年、樹姿の美しさや機能性、高齢者労力の活用や耕作放棄地対策等を目的とした新たな地域振興作物としてオリーブが注目され、北は宮城県から南は鹿児島県まで100を超える自治体でオリーブが栽培されている。

今ここに私たちは、「オリーブによる地域振興」を行う共通の目的で結ばれた絆をもって、オリーブの持つ無限の可能性を活かし、国産オリーブの魅力を高め、世界に発信していく活動に取り組むことを宣言する。

1. 私たちは、平和の象徴であるオリーブの栽培を次世代に引き継ぐため、農業経営の安定、美しい景観形成、地域振興の実現に努める
2. 私たちは、互いに友好を深め、国産オリーブのさらなる発展を目指すべく、オリーブ産地間のネットワークを構築し、「日本オリーブ自治体協会」を設立する
3. 私たちは、国際的なオリーブ生産国の一員として、国内に流通するオリーブ製品の信頼性を向上させること及び国産オリーブオイルの海外からの信頼性をより高めるために国に対し、IOC(インターナショナル・オリーブ・カウンシル)への加盟を要請していく
4. 私たちは、国産オリーブオイルに関してIOC基準と整合性のとれたJAS規格制定に向けた活動を支援していく

2019年2月23日

「2019 全国オリーブサミット in 小豆島」参加者一同

3月11日(月)、江田島市で育ったオリーブの樹が、広島市の学校に植樹されました。オリーブを植えてくださったのは広島市南区の2校。大河小学校と、広島市立広島特別支援学校です。江田島市と広島市の縁づくりとして企画されました。江田島市と広島市は、2014年に「海生交流協定」を結んでいます。この豊かな自然のなかで、海と山は繋がっています。そこでまず、江田島市の「山・畑」を代表する作物のひとつであるオリーブの植樹をきっかけとした交流を図るべく、今回の企画が実現しました。

大河小学校には、江田島市から、中町小学校の児童と校長先生が、広島特別支援学校には、江田島市から江能分級の児童と校長先生が駆けつけてくださいました。

植樹式には、江田島市の明岳市長、広島市の松井市長に加えて、両市の教育長さんらも参加。江田島市の柿浦モデル園で育ったオリーブが、両校に2本ずつ寄贈されました。



オリーブの花言葉のひとつが「平和」です。松井市長も植樹式で述べられていましたが、わたしたち広島県民にとって、平和の樹であるオリーブは広島にとってもぴったりで、意義深いものです。オリーブで繋がる江田島市と広島市。

江田島市のオリーブが広島市の学校へ。オリーブで繋がる両市のこどもたち。本当に嬉しい出来事となりました。「海生交流協定」のもと、これから進んでいく両市・両校の交流も楽しみです。

両市役所のみなさん、両校関係者のみなさま、ありがとうございました◎

